



前向きな気持ちの変化が、鎮痛薬の早期離脱に関係

肺がん・縦隔腫瘍手術患者で「心の回復」と術後鎮痛薬使用の関連を明らかに

本研究成果のポイント

- がんの手術後には痛みが長引き、痛み止めが長期間必要になる患者が少なくありません。
- 手術後に生じる前向きな心理的变化が大きい患者ほど、術後30日時点で痛み止めを必要とする割合が低いことを明らかにしました。
- 心理面の支援を通じ、術後回復や適切な痛み管理の向上につながる可能性があります。

京都府立医科大学大学院医学研究科 麻酔科学 後期専攻医 大屋里奈、同 教授 天谷文昌、同大学大学院医学研究科 呼吸器外科学 教授 井上匡美、同大学大学院医学研究科 生物統計学 助教 堀口 剛らの研究グループは、肺がん・縦隔腫瘍に対する胸部手術を受けた患者において、手術後の前向きな心理的变化と術後の痛み止め使用との関連を明らかにしました。本研究に関する論文は、国際医学誌『Anesthesiology』に2026年3月30日付けで掲載されました。

本研究は、胸部がん手術を受けた患者を対象とした観察研究によるもので、手術後にみられる前向きな心理的变化が大きいほど、術後30日時点で痛み止めを必要とする割合が低いことを示しました。今後、周術期の心理的支援を取り入れた新たな術後回復支援の展開が期待されます。

【論文基礎情報】

掲載誌 情報	雑誌名 Anesthesiology 発表媒体 ■ オンライン速報版 雑誌の発行元国 米国 オンライン閲覧 可 (URL) https://doi.org/10.1097/aln.0000000000006060 掲載日 2026年3月30日
-----------	---

論文情報	<p>論文タイトル (英・日) 英語：Association of Post-Traumatic Growth and Analgesic Use in Postoperative Patients (日本語：術後患者における心的外傷後成長と鎮痛薬使用の関連)</p> <p>代表著者 京都府立医科大学大学院医学研究科 麻酔科学 大屋里奈</p> <p>共同著者 京都府立医科大学大学院医学研究科 麻酔科学 平川由佳 京都府立医科大学大学院医学研究科 麻酔科学 前田知香 京都府立医科大学大学院医学研究科 麻酔科学 仲宗根ありさ 京都府立医科大学大学院医学研究科 麻酔科学 永井義浩 京都府立医科大学大学院医学研究科 麻酔科学 松岡 豊 京都府立医科大学大学院医学研究科 呼吸器外科学 岡田 悟 京都府立医科大学大学院医学研究科 呼吸器外科学 井上匡美 京都府立医科大学大学院医学研究科 麻酔科学 天谷文昌</p>
研究情報	<p>研究課題名 胸部がん手術後患者における Post-Traumatic Growth と術後鎮痛薬使用の関連</p> <p>代表研究者 京都府立医科大学大学院医学研究科 麻酔科学 天谷文昌</p> <p>共同研究者 共同著者と同様</p>

【論文概要】

1 研究分野の背景や問題点

がんの手術は、身体への負担だけでなく、患者に大きな心理的ストレスをもたらします。術後の痛みが長引くと、生活の質の低下や鎮痛薬の継続使用につながる可能性があります。一方で、人は大きな困難を経験した後に、人生観や他者との関係、自分自身の強さについて前向きな変化を示すことがあり、これを「Post-Traumatic Growth (PTG)」と呼びます。PTGは、災害経験者などで多く研究されてきましたが、手術後の患者におけるPTGと術後回復との関係は、ほとんど分かっていませんでした。

2 研究内容・成果の要点

本研究では、京都府立医科大学附属病院で肺がんまたは悪性縦隔腫瘍に対する胸部手術を受けた成人患者を対象に、前向き観察研究を行いました。術後1か月まで追跡できた120人について、PTGI-Xという質問票で手術後の前向きな心理的变化を評価しました。

その結果、手術前に不安が強かった患者ほど、術後1か月時点でPTGが大きいことが分かりました。さらに、PTGが10点高くなるごとに、術後30日時点で痛み止めを必要とする可能性が24%低下していました。

3 今後の展開と社会へのアピールポイント

本研究は、手術後の痛み止めの使用が、痛みの強さだけでなく、患者の心理状態とも関係する可能性を示しました。術前不安への丁寧な対応や、手術体験を前向きに受け止められるよう支える周術期ケアが、適切な鎮痛薬使用や術後回復の質の向上に役立つ可能性があります。今後は、多施設研究や介入研究を通じて、心理的支援を組み込んだ周術期医療が実際にどのような効果をもたらすかを検証していく予定です。

<取材等に関する事>

事務局企画課

電話：075-251-5804

E-mail：kouhou@koto.kpu-m.ac.jp